アッセンブリー2014

乙テーブル　総評

担当ジャッジ：酒巻・鈴江

総評文責：鈴江

《テーブルメンバー》

加藤（慶應２）・権田（WESA２）・外内（東洋３）・斎藤（MESA３）・秋山（明治３）

寺澤（明治２）・田中（芝工３）・城（立教２）・横江（立教２）・亀田（AGU３）（順不同）

《全体への総評》

１、議論のおおまかな流れ

ナローで寺澤くんの J/N の task を決めようという suggestion から議論が始まりました。J/G には J/N への task があるのだから J/N にも J/G への task があるべきだ、という主張から task を決めるべきかの議論に１時間かかってしまいました。その後は田中君の Death Penalty についてのオピシに沿って議論が進んでいきました。NFC では寺澤君の make effort に関する idea と斎藤さんの J/N と C/C の priority についての idea が議論の中心となりました。斎藤さんの DA とのコンパリでは時間が無いという理由で、NFC でコンセをとっていた DA>AD の idea を検証せずに使用し、×take plan といった結論に至りました。

２、それぞれの局面に対するコメント

① ナローに関して

寺澤君の J/N の J/G に対する task を決めようと言った suggestion で、J/N は make effort をするべきで、make effort していない人は J/N ではないというのが寺澤君のコアな意見だったと思います。斎藤さんの、１つの idea だからオピメ決めを先にやろうという suggestion と寺澤君の今話したいという主張がぶつかり、その結果として寺澤君の idea をロジックで検証し、クレームだけコンセという形になりました。この議論に１時間かけてしまったのは反省するべき点だと思います。メンバー全員が寺澤君が今話したい理由、コアな部分は何かをもう少し積極的に聞き出してあげる姿勢があってもよかったと思います。一方で今回の寺澤君のように suggestion を出したいときには、自分が話したい内容だからという理由だけではなく、テーブル全体にとってどのようなメリットがあるのかなどを明確にイメージできるようなプレゼンを行えるようにしてみて下さい。

② J/N と C/C のコンパリについて

NFC で斎藤さんが J/N>C/C に関してのコンセをとったものを検証せずに使用して priority を置いていました。コンセとったものを使用出来ていた点は良いと思いますが、実際にそのロジックが証明されていない為、時間が無いと言う理由で検証をしなかったのはあまり良くない点だと思います。また、NFC でコンパリの議論になった際に、ここでも後で話すか今話すか、という点で少し時間をとってしまっていました。流す方向性は良いと思いますが、全てを流すのではなく、斎藤さんが示してほしいと言っていたオピメの J/N<C/C の idea をシェアして次に進むなど、斎藤さんのやりたい事と先に進める事の妥協点を上手く見つけ出せればよかったと思います。

《個人への総評》

・斎藤（MESA３年）

３時間のディスカッションを通して自分の意見を示す事はもちろん、相手の意見を理解しようという姿勢や議論の進行を行えていたという点を考慮し乙一としました。全体を通して良かったと思いますが、今回のテーブルは 10 人いる中で数人で行われたものだったと感じたので、これからのディスカッションでは全体が理解できているのかなどをもう少し意識できればなと思います。

・田中（芝工３年）

全体を通してオピメとして安定していたと思ったので、その点は良かったと思います。また議論の進行にも貢献してくれましたが、部分的であり suggestion も流れてしまったりという事がありました。これから後輩とディスカッションをする事が多くあると思うのでトリートなどの質を上げていき是非後輩に伝えていいってください。

・寺澤（明治２年）

ナローから suggestion をしてくれて、その後も一貫して自分の意見をテーブルに落とそうという姿勢はとてもよかったです。しかし全体的に自分の意見の浸透率の低さなど感じたと思います。プレゼン方法や task を決める事のメリット、また上手くいかない時の妥協点まで考えられていたのかなど、なぜ上手くいかなかったのかをもう一度研究してみてください。

・権田（WESA２）
自分の意見が持っていて、DA まで意見をテーブルに出していたのは良かったと思いますが、限定的な介入となってしまっていました。これから自分の idea をもう少し広げてテーブルに出していき、印象付けられたらいいと思います。また、Qをするだけでもいいのでもう少し他人の意見にも少しずつ介入していってみて下さい。

・横江（立教２年）亀田（AGU３年）
テーブルメンバーの意見を理解しようという姿勢が感じられ、Qもしてくれていました。しかし部分的な介入となってしまっていました。理解しようという姿勢のまま、自分の意見を持ってテーブルに出していけたらディスカッションを行っていても楽しくなると思います。今回のテーブルは難しい内容だったかもしれませんが、どんなテーブルでも話に入っていけるように頑張ってください。

・加藤（慶應２年）外内（東洋３年）秋山（明治３年）城（立教２年）
今回のテーブルの議論が難しかったせいか、あまり介入ができずついていくのにいっぱいいっぱいになってしまったようでした。分からない部分がある時は止めてでも説明をしてもらう姿勢を意識してみて下さい。自分が分からない事は他人も分からない事なので、聞いて損はないです。また、トピックに対して何かしらの意見を持ちっておくことも大切な事です。これからのディスカッションでは少しでも議論に参加できるように頑張ってください。

《全体を通して》
アッセンお疲れ様でした。２回のディスカッションでランクが決まってしまい、納得できない結果だった人もいると思います。しかし、最後まで自分のやりたい事をやろうという気持ちは伝わってきました。自分のやりたい事はもちろん、他人もやりたい事がある人がいます。１人でも多くの人の意見を取り入れて議論を盛り上げる為にはどのようにトリートすればよいのか、妥協点はどこなのかなど研究してみて下さい。
３年生はこれから引退まで自分が得たものを自身を持って１つでも多く伝えていってください。２年生はこれからまだ伸びていく余地は沢山あるので自分がディスカッション生活を通して目指すものを振り返り、それに向かって頑張ってください。

何かあれば鈴江（m.h-p21@softbank.ne.jp）まで！